

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、炭山嘉伸、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

本誌のあとがきを初めて書くに当たって、編集室から過去の見本が送られてきたので数編読ませていただいた。経験談あり、雑感あり、社会情勢あり、専門的な話あり、テーマはいろいろだが皆素晴らしい文章である。いや、正確に言うならば素晴らしい文章に思える。若い後輩への教訓、これからの医療への提言、もっと広く人間としての在り方への示唆など、いずれも主張があり、説得力がある。

もちろん以前、編集委員という立場になかったときも読んでいたが、月号欠かさずというわけではなく、自分の執筆した論文が掲載されたときなどに何気なく目を通す程度である。今執筆する立場になって、その気で読んでみると初めてこれは大変な仕事だと思い知らされた。とてもこんな立派な文章は書けない。テーマはいくつか頭に浮かぶが今ひとつ決めかねる。どれも先人の書いたものに見える。こんなことなら何も参考にしないほうがよかった。かくして、最も安易に本号の特集に関連して、「膵臓外科」と「新たな展開」をキーワードにして筆を執ることにした。

膵臓外科はまだ解決、改善しなければならない点の多い分野である。本号では膵良性疾患に対する外科治療、IPMN およびその他周辺疾患の手術適応、膵癌とくに血管浸潤例に対する手術適応とその成績、膵癌術後補助化学・放射線療法および膵移植など、幅広い項目にわたって新たな展開が過去の変遷を振り返りつつ述べられている。最近ではエビデンスが重視され、膵癌に対しても診療ガイドラインができた。エビデンスは統計学と歴史の評価を経て確立されたものであるから、それに基づいたガイドラインを遵守していれば大きな過ちはなく患者も安心する。しかしながら、それ以上の成績を求めるためには「新たな展開」、「ブレイクスルー」が必要であり、適切な手続きと規制のもとで新たな試みを実践し、検証することによって新たなエビデンスが生まれる。それが医療の進歩と最終的には患者の利益につながることを、医療従事者のみならず患者にも認識してもらう必要があると思う。肝臓移植の父であるスターツは25年前に次のように語っている。

“The history of medicine is that what was inconceivable yesterday and barely achievable today often becomes routine tomorrow.”

(島津元秀)

臨床外科 (第62巻第13号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2007年12月20日発行(毎月1回20日発行)

定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5%)
2007 年 年ぎめ予約購読料 38,960 円 (税込)
(送料弊社負担・増刊号を含む 13 冊)

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail : ringe@igaku-shoin.co.jp
担当 鶴淵・田村・中田
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- JICLS < (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物 >
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌を複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。